

植物多様性センターの「モチノキの高等戦略」

モチノキはモチノキ科の常緑樹で冬に赤い実をつけます。雌雄異株ですが、未受精でも種子形成が可能です。それが全体の三割にも達しますが、これは天敵モチノキタネオナガコバチに対する対抗戦略です。コバチの幼虫が実に寄生すると、秋になっても赤くならず緑のままに食べられないため、鳥散布で繁殖するモチノキはコバチの産卵を何とか避けたい。コバチは種子を餌とする幼虫のため受精種子にのみ産卵し、産卵管を挿入しても未受精の場合産卵しません。未受精種子は発芽せず繁殖には役立ちませんが、産卵に無駄な手間と時間をかけさせ、天敵の繁殖を妨害しているのです。



赤と緑の実が混在する
時に黒くなった実も混ざる



一果に四粒の種子ができる
これは赤い実の種子



冬、実と共に花芽がつく
雌花(上)の方が芽は少ない

♀



♂



開花は3月末～4月
雌花(上)には緑色の子房